

「真夏の戦い」

アツいアツいと言ってばかりおりますが、K/GT 耐久東海シリーズの今季第 2 戦がスパ西浦モーターパークで開催。開幕戦の 4 月の頃には清々しかった空気も今やすっきりと湿気を帯びて、温度計の針は 30℃を大きく超える蒲郡の午後、しっかりと準備をして望んでほしい。

「NN-B」クラス（軽NAのノーマルクラス ビギナー）

開幕戦で優勝を飾ったのは#45「インフィニティーアルト」、このままチャンピオンに向かって走るか。ちなみにこのチームは GT 耐久と掛け持ちの 2 台エントリーを続けてきたが、FX のマシン修復がならず、今大会は 1 台エントリー、アルトに全力投球だ。

#7「セバンレーシングアルト」、開幕戦では「ローッキーレーシング」のマシンを借りての参戦だったが、今回はマイカーが間に合った、さらに今季初出場の#327「テラテラボフアルト」の計 3 台の出走。

■予選

予選トップは#45「インフィニティーアルト」1' 13.244、昨年最終戦の初優勝から連勝、今回勝てばハットトリック。

2 位は#7「セバンレーシングアルト」1' 14.598、やはりマイカーのほうがしっくり来るか。エンジンからミッション、足廻りと見直してきた、ストップインフィニティだ。

3 位#327「テラテラボフアルト」1' 17.149、今季初出場だけに上位チームにどこまでついていけるかがカギとなりそうだ。

■序盤

予選トップの#45「インフィニティーアルト」がまずリードを広げようとする。本来の姿に戻った#7「セバンレーシングアルト」、今回はしっかりとついていき、#45 をマークしたい。

#327「テラテラボフアルト」、まずは自分たちのペースをつかみたい。

■中盤

マシンの整備をした結果か、中盤でも互角の展開を見せる#7「セバンレーシングアルト」、タイムも 12 秒台に入れ、#45「インフィニティーアルト」に食らいつく。途中トップを走る姿も見られ好調をキープ。

とはいえ#45「インフィニティーアルト」のほうがやはり若干先行、ピットストップで 2 位に下がっても余裕が感じられる。

3 位#327「テラテラボフアルト」、速さでは上位 2 台とは差があるが、自身の予選タイムは大きく上回ってきており、しっかりとしたレース運びができている。



レースをコントロール！ #45



マイカーはしっくり来る(^_^;) #7



今季初参加で 3 位 #327



Race Report

GT-CAR PRODUCE

■終盤

トップに返り咲いた#45「インフィニティーアルト」は後続に1Lapの差をつけて終盤へ。開幕戦優勝のため20キロのウェイトが課されている。20キロとはいえノーマルクラス(NN)マシン、暑さの影響も無視できない時間帯だ、ここからはさらに集中力を上げていきたい。

#7「セバンレーシングアルト」は1Lap差の2位、とはいえラップタイムはクラス最速を記録、マシンモディファイの効果は十分に出ている、追いつけるか！

3位#327「テラテラボファルト」、ここまでミスなくできている、あとはこのままチェッカーまで運んでいきたい。



■最終結果

#45「インフィニティーアルト」は最後まで1Lapをつめさせず、フィニッシュ。開幕戦に続き連勝、昨年からの連勝を3に伸ばした。

#7「セバンレーシングアルト」は追いきれず、2戦連続の2位という結果。

3位#327「テラテラボファルト」今季初戦を完走、3位フィニッシュでまとめた。



■総評

すっかり自信をつけた#45「インフィニティーアルト」、走行中に右ブレーキランプの不点灯を指摘されピットで修復する一幕もあったが、それ以外はほぼ満足の行くレース運び、終盤で追い込まそうになったところ、最終ステントで最速タイムを更新するなど、粘り強さも見せた。やはりこれは自信のなせる技なのだろう。さあこのままチャンピオンに走るか。

2位はやっと本来のマシンを走らせた#7「セバンレーシングアルト」、追い込みきれなかったものの、速さも十分に見せだし、かなりの手応えは掴んだに違いない、まだまだ逆転でのチャンピオンは諦めてない。

今季初参加の#327「テラテラボファルト」もしっかりと走り抜き、表彰台へ。暑いなか、集中を切らずよく走り抜いた。



ポイントリーダー！



ビギナークラス

「NN-E」クラス（軽NAのノーマルクラス エキスパート）

「エキスパート」クラス。マシン規定ははビギナーと変わらないながらも、タイムは速く、ビギナーからステップアップしてくるチームも多い。

今大会では 6 台がエントリー、K 耐久カテゴリーの中では最も多い。

開幕戦を勝利したのは#29「スーパーアルトバイエル」、ビギナーからステップアップした初戦で、それも予選 7 位からの逆転優勝という劇的なもの。

その実力が試されると言っても良い、第 2 戦、アツいバトルの先にある栄光をつかめ。



予選 3 位からの今季初勝利！ #10



2 位でポイントはトップ #29



祝 初ポディウム！ #24



くう、またまた 4 位 #55



初参加でしっかり完走 #478

■予選

予選トップは#5「Baden PROJECT K アルト」1' 10.120、昨年はこの第 2 戦で念願の初優勝、と思い出深いラウンド。今年もいっちょうバしたいところ。

2 位#55「STC 中部 Hane's トウデイ」1' 10.299、やはり速さは健在、開幕戦では届かなかった表彰台へ好スタートを切りたい。

3 位#10「FAST OUT 最速アルト V」1' 10.359、予選では最速とはいかなかったものの、昨年の 2 勝の実力派、今回もかき回すぞ。

4 位#29「スーパーアルトバイエル」1' 10.452、開幕戦は予選 7 位からの大逆転！僅差の NN-E ならではの痺れるレースを見せてくれた。さて今回は。

5 位#24「くま七アルト」1' 10.756、しぶとい走りが魅力のチーム、じわじわ上がるか。

6 位今季初出場#478「サンシート SHRI トウデイ」1' 11.765、トップから 6 位までが 1.6 秒強に入る僅差の予選、本当にどのポジションからの大逆転はあるぞ。

■序盤

さすが、K 耐久で最も激しい戦いといわれるこのクラス、最初のスティントではほとんど差は見られない。予選トップの#5「Baden PROJECT K アルト」を先頭に、#55「STC 中部 Hane's トウデイ」、#24「くま七アルト」までがトップ 3。

さらに#29「スーパーアルトバイエル」、10「FAST OUT 最速アルト V」、#478「サンシート SHRI トウデイ」と続く。ここまで約 25 秒、さあ今日もアツい一日になりそうだ。

■中盤

中盤で抜け出しそうなのが#10「FAST OUT 最速アルト V」、他チームのピットストップの間にリードを広げようとする。しかしすぐまた 2 位以下が追いかけてくる。残念なニュースが、予選トップの#5「Baden PROJECT K アルト」がスロー走行の後ピットイン、その後駆動系ハブのトラブルのようになりタイヤとなってしまった。かわって好調なのは#24「くま七アルト」、折返しは 2 位走行、もう一つ順位を上げるべくさらなるプッシュ。

3 位は#29「スーパーアルトバイエル」、ダクトをつけての暑さ対策、マシンの変更点とはという問いに「太った…」とこれは 20 キロのウエイトのことを言っているのか、美味しいアルトバイエル(ン)を食べすぎたのか!?

4 位#55「STC 中部 Hane's トウデイ」、5 位#478「サンシート SHRI トウデイ」とトウデイ勢が並ぶ。ここは同車種対決なので、絶対に負けられない戦いが…

Race Report

GT-CAR PRODUCE

■終盤

今回も混戦、#10「FAST OUT 最速アルトV」が先頭、#29「スーパーアルトバイエル」、#24「くま七アルト」、#55「STC 中部 Hane's トウデイ」が上位争い。優勝争いと同時に1台は表彰台からこぼれ落ちる。

タイム的には1分10秒台の前半から中盤が最速タイム、どのチームも速さの絶対値は変わらないか。

となるとミスを防ぐ集中力やタイヤの使い方といったところ、まだまだ気温は下がる気配のない4時の蒲郡が各チームに最後の試練を与える。

その試練が襲いかかっているのが5位#478「サンシート SHRI トウデイ」、4時を挟んでマシンの挙動が不安定、スピンの頻発しコースアウトという状況もありSCランへ。少しここは落ち着いて残り時間を使いたいところだ。



残念マシントラブルでリタイヤ #5



1に帰ってきました！

Race Report

GT-CAR PRODUCE



■最終結果

混戦に決着、#10「FAST OUT 最速アルト V」が 141Lap で優勝。2 位は#29「スーパーアルトバイエル」140Lap と 1Lap 差。

3 位争いは同一周回、#24「くま七アルト」が 20 秒弱の差で#55「STC 中部 Hane's トウデイ」を振り切った。#55「STC 中部 Hane's トウデイ」は惜しくも 2 戦続けての 4 位、それと同じように同一周回の僅差…

5 位終盤は少し苦しかったが見事完走の#478「サンシート SHRI トウデイ」規定周回数を余裕を持ってクリアした。



■総評

今回も接戦、優勝争い、表彰台争いともに僅差、まさに NN-E クラスの醍醐味！どのチームにもチャンスがあるが、ミスは許されないというレースの面白さを詰め込んだクラスと言える。

暑いなか、最後まで走りきった、ドライバー、チームクルーたちにみんなこそが勝利者だ。

シリーズポイントは#29 アルトバイエルが 35P に伸ばして、ランキングトップを堅持。2 位には#10FASTOUT が 32P でつけている。こちらも混戦だ。



エキスパートクラス



じゃんけん毎回勝っているような…



開幕 2 連勝！ #25

NCクラス（軽NAのクローズドクラス）

リビングレジェンド#25「アカミネコマル 2 トウディ」が、ほぼ完璧な形で開幕戦を制し新たなチャンピオンロードを進みはじめた！！全 3 チームが参加。王者の歩みは止められるのか。マシンはすべて JA4 のトウディ。

■予選

予選トップは、やはり#25「アカミネコマル 2 トウディ」1' 09.625 シーズン前に OH したエンジンも含めマシンの調子化いかほどか 20 キロのウエイトをものともせず予選クラストップをゲット。

2 位は#58「KPR☆Adiot トウディ」1' 10.567。開幕戦で初参加、3 位表彰台を獲得今回の変更点は「リヤタイヤの空気圧は下げ、かわりに気合を注入」だそうです。

3 位#225「ぐっちっちブラウニートウディ」1' 10.983、打倒王者の有力チーム。開幕戦は自己最高位の 2 位。

■序盤

やはり序盤から#25「アカミネコマル 2 トウディ」、今回も強い。リードを築いていく。2 位は#58「KPR☆Adiot トウディ」、3 位#225「ぐっちっちブラウニートウディ」の順でなんとか 1 Lap 差で食らいついていく。ここまでペナルティもコースアウトもないレースを展開。

■中盤

ここまで盤石なレース運びを見せる王者、いつもならこのあたりからスパートをかけて後続を引き離しにかかるところ。しかし今回は#58「KPR☆Adiot トウディ」が粘り強くついてくる。まだ 1 Lap 差で踏ん張っている。

3 位#225「ぐっちっちブラウニートウディ」もペースアップ、1 分 10 秒を切ってきた。このチームは後半型。

■終盤

今回もほぼレースを支配する#25「アカミネコマル 2 トウディ」、先手先手でピットを取行。一旦その間は#58「KPR☆Adiot トウディ」がトップに上がる。#58 は初めて全体でもトップ走行。

3 位#225「ぐっちっちブラウニートウディ」も 3 Lap 差ながらまだまだあきらめない。



自己最高位！！ #58



3 位、終盤の追い上げは流石 #225



Race Report

GT-CAR PRODUCE

■最終結果

終盤に他クラス要因の SC ランで#25「アカミネコマル 2 トウディ」と#225「ぐっちちブラウニートウディ」がピットイン、ともに最終ステイントに入る。

#58「KPR☆Adiot トウディ」はまだこの時点ではコース上、トップ走行。

しかし、最終ピットインで#25「アカミネコマル 2 トウディ」がトップに浮上し、終わってみれば開幕 2 連勝王者の走りを見せた。

2 位#58「KPR☆Adiot トウディ」も大健闘、もう少しの速さがあれば、初優勝の可能性もあった、まずは 2 位に乾杯。

3 位#225「ぐっちちブラウニートウディ」も最終的には 2 位ど同一周回、40 秒ほどの差まで追い上げ、後半に強いところを見せた。



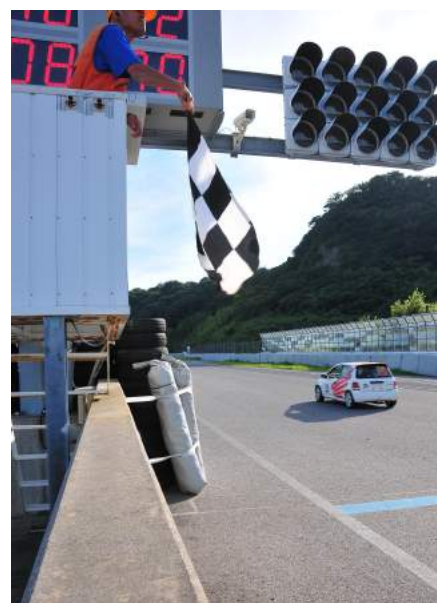
■総評

最終ステイント#25「アカミネコマル 2 トウディ」の第 3 ドライバー、香村選手はロングランの上、レース中の自己最速ラップの更新と暑い中の大車輪の活躍。さらに NN-E の#24「くま七アルト」でも第 5 ドライバー、で最後はじゃんけんでオイルゲット(こちらも開幕に続く勝利)八面六臂の働き！！

ともかくこれで開幕 2 連勝、V8 が見えてきたか。



NC クラス





取り返した1勝 #93



猛追及ばず #69



連続3位 #28



KTWS シリーズから助っ人に

TCクラス（軽過給機のクローズド）

このクラスも毎회가熱戦、開幕戦では#69「モモヤマレーシングアルト」が予選3位からの逆転優勝で、念願の初タイトルに向けてまずは一つ獲った。

今回#330「RACING FAN」が不参加なのは残念だが、4チームが参加。またまたアツいバトルを期待！

■予選

予選トップは#28「KHK VIVIO」1'06.404、今回は力強い助っ人をよんだ、KTWS（軽トラワールドシリーズ）などでも活躍するチキン選手。

2位は#69「モモヤマレーシングアルト」1'09.503、接戦となった開幕戦に勝利して意気が上がる、シリーズの行方を占う大事な第2戦でどんな走りを見せるか。

3位は#93「藤枝マリンダイビングアルト」1'10.034、本来のチームのスピードからすると不本意か…決勝での巻き返しに期待したい。

4位は#112「白須賀会カプチーノ」1'11.378で全車予選通過。

当然のことながらこのクラスは全車過給機付、クローズドクラスといえども、熱の影響は気をつけたいところだ。20キロのウエイトは#69のモモヤマレーシングに。

■序盤

まず最初にピットを行ったのは#93「藤枝マリンダイビングアルト」、その間のトップは#28「KHK VIVIO」。2位#69「モモヤマレーシングアルト」、3位#112「白須賀会カプチーノ」。

■中盤

折り返し時点で中盤でトップを行くのは#69「モモヤマレーシングアルト」、2位#28「KHK VIVIO」、3位が#93「藤枝マリンダイビングアルト」が続く。ラップボード上は3Lapほどの差がついているが、ルーティンピットによるもので、実際は同一周回かそれに近い差と思われ、やはり今回も混戦か。

#112「白須賀会カプチーノ」は途中スピンもあったが、大事には至らずコースに復帰している。

なお#93「藤枝マリンダイビングアルト」には走行中リヤハッチゲートが開くというトラブルが発生したが、これもピットですぐさま手当をして、戦列に復帰、最小限のロスでレース続行。



最終スティントに同じタイミングでピットイン

Race Report

GT-CAR PRODUCE

■終盤

レースは残りの時間、少し風はでてきたもののまだまだ日差しは照りつける。そんな陽炎の中、熾烈なトップ争いが繰り広げられる。

先頭は#93「藤枝マリンダイビングアルト」、わずか4秒8の差で#69「モモヤマレーシングアルト」が2位、その約20秒後方には3位の#28「KHK VIVIO」が続いている。

4位の#112「白須賀会カプチーノ」も4Lap 差だ、#112は開幕戦でオルタベルトが切れるトラブルに見舞われた時間帯、今回は何とか乗り切りたい。

■最終結果

終盤猛烈な追い上げをはかっていた#69「モモヤマレーシングアルト」だったが、結局届かず2位、逃げ切ったのは#93「藤枝マリンダイビングアルト」。その差13秒5の決着だった。

3位#28「KHK VIVIO」が1Lapで入り、4位は#112「白須賀会カプチーノ」という結果。

■総評

開幕戦に続き接戦が見られた今回、開幕戦とは1位と2位が入れ替わった格好でともに1勝をあげて35P 同士。

ランキング3位は24Pで連続3位の#28「KHK VIVIO」がつける。次戦は9月、秋分の日だ。暑さが残るかはたまた秋の雨になるか…



4位は今回唯一のカプ #112



前周りに色が増えましたとのこと



TC クラス





掴んだ初勝利 #448



出だしでマージンを稼ぐ作戦だったが #23



今回も速さは抜群だったが...

OPクラス（軽NAおよびターボのオープンクラス）

他のイベントの日程や準備の関係もあってか今回のOPクラスは2台と少々さびしいが、その分濃くアツいバトルを期待しよう。

■予選

予選トップは、ターボ車の#23「Team Jatsun アルト」1'05.989。全体のPP獲得。やはりOPクラスの速さは流石。熱対策にこのチームもダクトを装着、ほこり対策のネットも完備。

予選2位#448「スバル東愛知SHRプレオ」が1'06.051でフロントローといきたいところだが、予選終了時に電気系と思われるトラブルでストレート上でストップ。ピットスタートなる。

■序盤

スタートから圧倒的なペースで飛び出す#23「Team Jatsun アルト」、一人05秒台に入れるファステストラップを刻む。

2位#448「スバル東愛知SHRプレオ」はエンジンの息継ぎと思われる現象が出てピットでの調整を繰り返す。

その時#23「Team Jatsun アルト」が緊急ピットイン、ドライブシャフトが外れ駆動が伝わらない。修復を試みるが、レースタイム中には治らないと判断しリタイヤを決断、残念ながら11周目のことだった。

■中盤

序盤苦労をしていた#448「スバル東愛知SHRプレオ」だが、電気系部品の調整や交換を行った後はペースを取り戻し、06秒台のラップを記録。

■終盤

序盤の出遅れを取り戻そうと奮闘する。ラップタイムもリタイヤした#23に次ぐ1'06.101を記録して意地を見せる。これは完走車両中ではトップ。

■最終結果

最後まで頑張った#448「スバル東愛知SHRプレオ」も無事チェッカー！傷だらけの初勝利だった。

■総評

辛い戦いだったが完走したことで#448「スバル東愛知SHRプレオ」が初のポイントリーダー。猛者たちとのバトルを期待したい。



OPクラスリーダー